

第2章 本事業の概要

I 平成20年度の取り組み

1 学校評価の概要

平成20年度当園では、(社)新潟県私立幼稚園協会が文部科学省から委託を受けて実施した「幼児教育の改善・充実調査研究事業」の研究モデル園として、「幼稚園における学校評価ガイドライン」を踏まえた「幼稚園の学校評価の推進の在り方」調査研究に取り組みました。

幼稚園における学校評価の推進に関する調査研究について金城幼稚園の基本方針は以下の通りです。

- ① 認定こども園として必要な自己点検・自己評価項目を策定する
- ② 職務担当別、特に指導的立場の自己点検・自己評価項目を考察する
- ③ 下記に示す理由に基づき、次の三点について考察を行なう
 - ・ 効果的でわかりやすい自己点検を行なう
 - ・ 各職種で自己評価がしやすく課題・目標が明確になる
 - ・ 結果として改善策が導き出せる体制と方策を明らかにする

理由

- ① 認定こども園としてスタートしたばかりですべてが試行錯誤の状況である。
- ② 認定こども園として1歳児からの受け入れを行っている。5歳児まで各クラスとも複数担任で担任と副担任の役割がある。他施設との兼務職員も多くいる。また、養護教員を配置しているため、同じ教員でも役割が大きく違っている。総括主任や主任等指導的立場の教員(職務担当別)の自己点検・自己評価項目を設定し、職員一人ひとりの課題や目標、その後の改善への意欲を確認することが必要である。
- ③ 幼稚園として一般的な自己点検・自己評価と合わせ、認定こども園として必要最小限の自己点検・自己評価項目を策定し、自己点検・自己評価を行い、結果をあきらかにすることが求められている。
- ④ 各自の自己評価に対し見識者(大学准教授やの第三者評価受診施設)から意見聴取し、客観性・透明性を高めることが求められている。(関連施設で、第三者評価の受診施設がある。)

認定こども園としての新たな自己評価シートを作成するにあたっては、「よくできている」「まあまあよくできている」「あまりできていない」「まったくできていない」の4段階で評価することとし、あえて真ん中の評価を作らず、記入することで考えが深まるようにしました。また、保育者と指導的立場と分けてそれぞれのシートを作ったことで、内容に幅ができました。記述欄を設けたことで、評価の際、具体的な事例に戻って再検討できるようにもしました。

認定こども園として、幼稚園機能部分での評価に加え、新たに保育所機能の評価項目の設定や評価の体制づくりをどう構築するかなど新たな課題が浮き彫りとなり、「幼稚園における学校評価ガイドライン」だけでは対応することができないことを把握することができました。しかし、実質5ヶ月(9月～1月)の短期間の研究であったため、認定こども園としての自己評価における評価項目や指標等を精査するまでには至りませんでした。

